

三原のお宝 歳出しニュース

— 第 66 号 —

和菓子からみる 三原の梅



資料館には、3種類の焼印が収蔵されています。
2センチ四方の模様には、枝も描かれています。

三原は、江戸時代の和歌や俳句、漢詩の題材にされるほど、梅の名所として多くの人に知られていました。現在も西野梅林や本郷の三景園などが有名です。

三原で平成12（2000）年まで営業していた和菓子屋「菊寿堂」も、梅の名所三原にちなんで、梅を取り入れた商品を販売していました。資料館収蔵の資料には、梅の絵柄を取り入れた和菓子用の道具がいくつかあります。

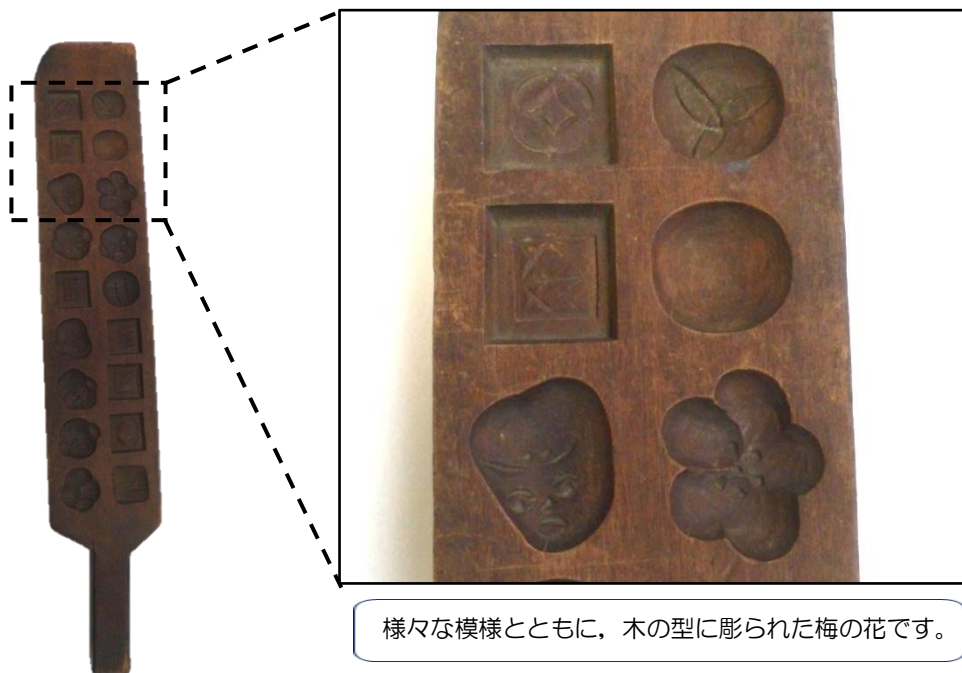
1つ目は、饅頭などに模様を入れる焼印です。火で熱し、出来上がった饅頭に当てると、こげた部分が絵柄になります。

2つ目は「桃山」用の型です。桃山とは、卵の黄身や白あんなどを混ぜて焼いた、柔らかい饅頭のことで、梅の花や枝が細かく表現されています。



桃山の型の図柄です。

3つ目は、^{らくがん}落雁などに使う道具です。^{でんとうてき}伝統的な模様や人物などが一つの型に^ほ彫り込まれています。様々な和菓子に春の^{ふんいき}雰囲気を盛り込み、季節感を表現しようとしていたことが分かります。



様々な模様とともに、木の型に彫られた梅の花です。

～和菓子まめ知識～

^{おおもりかいづか}大森貝塚（東京都品川区）を発見したアメリカ人・動物学者エドワード・モースは、日本の暮らしや文化に深い関心を持ち多くの品々^{しなじな}を集めていました。

和菓子にも興味があったモースは、明治時代に京都で作られた^{ひがし}干菓子、ビン入りの^{こんべいとう}金平糖、^{ようかん}羊羹の^{かんづめ}缶詰などを持ち帰りました。

これらは現在、アメリカのピーボディ・エセックス博物館で保管されています。

三原の文化財はみはらデジタルミュージアムでも見られます！



<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/digital-museum/>

《編集後記》

梅の花で彩られた和菓子からは、季節感を大事にしようとする想いが伝わってくるように思います。

四季折々の和菓子を、お店で探してみませんか？（み）

三原市歴史民俗資料館

三原市円一町 2-3-2

TEL0848-62-5595

令和5年3月発行

